

平成27年度

病害虫発生予察情報

第 14 号

8月月報

北海道病害虫防除所 平成 27 年9月 18 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況

札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『並温・少雨・並照』局地的な大雨が度々発生－

この期間の天気は、上旬と下旬は数日の周期で変化したが、中旬は暖かく湿った気流や上空の寒気などの影響で雨の降った日が多かった。また、上旬から中旬にかけては局地的な大雨となった日もあった。気温は上旬は平年より高く、下旬は低く、月平均気温は平年並だった。降水量は下旬は平年よりかなり少なく、月降水量も少なかった。日照時間は、いずれの旬も平年並で、月間日照時間も平年並だった。なお、太平洋側の下旬の降水量は1961年の統計開始以降、最も少なかった。

上旬：1日は前線の影響ではじめ雨の降った所が多かったが、日中は概ね晴れた。日降水量は上川町層雲峡で79.0mmなど。2～3日は高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、渡島半島などでは雨の降った所があった。日降水量は2日に松前で60.0mmなど。4日は暖かく湿った気流の影響で曇った所が多かった。5日は前線の影響で日本海側北部やオホーツク海側では雨が降ったが、その他は晴れた。6日は前線や暖かく湿った気流の影響で雨の降った所が多く、大雨となった所もあった。日降水量は日高町本町で95.5mmなど。7日は気圧の谷の影響ではじめ日本海側南部や太平洋側を中心に雨が降ったが、日本海側では次第に晴れた。日降水量は札幌市中央区で72.0mmなど。8～9日は高気圧に覆われて日本海側南部やオホーツク海側では晴れたが、その他は雨の降った所があった。10日は前線や暖かく湿った気流の影響でオホーツク海側や太平洋側を中心に雨が降り、記録的な大雨となった所もあった。日降水量は標茶町開運で169.0mmなど。

中旬：11～12日は晴れた所が多かったが、暖かく湿った気流と上空の寒気の影響で雨が降り、記録的な大雨となった所もあった。日降水量は11日に中標津町桜ヶ丘で73.5mm、12日に旭川市瑞穂で53.0mmなど。13～14日は高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、暖かく湿った気流と上空の寒気の影響で雨の降った所もあった。日降水量は14日に士別市九十九東で75.0mmなど。15～16日は暖かく湿った気流と上空の寒気の影響で雨の降った所が多かったが、晴れた所もあった。17日は高気圧の張り出しの中で、日本海側では晴れた所が多かったが、気圧の谷が接近し雨の降った所があった。18～19日は低気圧の影響で全道的に雨が降り、18日は記録的な大雨となった所もあった。日降水量は18日に知内で160.5mmなど。20日は気圧の谷の影響で雨の降った所が多かったが、太平洋側を中心に晴れた所もあった。日降水量は奥尻空港で62.5mmなど。

下旬：21日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、日本海側や太平洋側では晴れた所が多かった。22日は前線を伴った低気圧が接近し、太平洋側では雨の降った所が多かったが、日本海側では概ね晴れた。23～24日は気圧の谷や冷たく湿った気流の影響でオホーツク海側や太平洋側で雨の降った所があったが、日本海側を中心に晴れた。25日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れた。26日は気圧の谷の影響で渡島半島を中心に雨の降った所があったが、オホーツク海側では概ね晴れた。27日は気圧の谷の影響で日本海側南部を中心に雨が降った。28日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、日本海側北部や渡島半島などでは晴れた。29～30日は高気圧に覆われて晴れた所が多かった。31日は高気圧に覆われて晴れた所が多かったが、上空の寒気の影響で雨の降った所もあった。

気候表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道 22 地点平均	-0.1	並	60	か少	96	並
日本海側 10 地点平均	0.0	並	58	少	102	並
オホーツク海側4地点平均	-0.9	並	40	か少	77	少
太平洋側8地点平均	+0.2	並	73	並	98	並

(注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」、「かか(多)」で表しています。

II. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生量 やや多

予察田の「きらら397」における葉いもちの発生量は、岩見沢市および北斗市で平年に比べ多く、比布町では平年並であった。

8月3半旬の巡回調査では、いずれの調査地点においても発生は認められていない。

予察田における水稻の葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	25.0	9.0	30.5	11.5	31.0	14.3	4
	ななつぼし	39.0	30.0	44.5	30.3	44.5	39.0	4
比布町	きらら397	15.0	36.9	44.0	38.2	44.0	44.6	10
	ほしのゆめ	43.0	47.1	40.0	53.2	40.0	56.2	10
北斗市	きらら397	25.0	14.3	28.0	17.0	31.0	18.9	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

一般田における水稻の葉いもち巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		普及センター	地点数	発病株率(%)				
		8月3半旬				8月3半旬				
		本年	昨年			本年	昨年			
空知	本所	5	0	0	渡島	本所	3	0	0	
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	0	0
	南西部	4	0	0			北部	2	0	0
	中空知	4	0	0	上川	本所	8	0	0	
	北空知	8	0	0		富良野	2	0	0	
石狩	本所	6	0	0		大雪	4	0	0	
	北部	4	0	0		士別	2	0	0	
後志	本所	4	0	0	名寄	3	0	0		
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	3	0	0	
日高	西部	3	0	0		南留萌	3	0	0	

いもち病（穂いもち・節いもち） 発生期 やや早 発生量 やや少

予察田の「きらら397」における枝梗いもちの初発期は、岩見沢市では平年よりやや早く、比布町では平年並、北斗市では平年より早かった。首いもちの初発期は、岩見沢市では平年並、比布町および北斗市では平年より早かった。節いもちの初発期は、岩見沢市では平年よりやや早く、比布町では平年より早く、北斗市では平年並だった。

穂いもちの発生量について、岩見沢市では発病穂率は平年並、発病首率は平年に比べ低かった。比布町では発病穂率、発病首率ともに平年に比べ低かった。北斗市では発病穂率は平年に比べ高く、発病首率は平年に比べ低かった。節いもちの発生量は、岩見沢市および北斗市では平年に比べ少なく、比布町では平年並であった。

8月6半旬の巡回調査結果では、一般田における穂いもちの発生は認められなかった。

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの初発期

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		枝稜いもち		首いもち		本年	平年	
		本年	平年	本年	平年			
岩見沢市	きらら397	8月11日	8月16日	8月17日	8月17日	8月20日	8月23日	4
	ななつぼし	8月14日	8月14日	8月17日	8月17日	8月9日	8月19日	4
比布町	きらら397	8月5日	8月7日	8月6日	8月12日	8月8日	8月14日	10
	ほしのゆめ	8月3日	8月5日	8月6日	8月7日	8月8日	8月8日	10
北斗市	きらら397	8月5日	8月15日	8月7日	8月20日	8月20日	8月22日	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		発病穂率(%)		発病首率(%)		発病莖率(%)		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	30.6	29.1	2.2	15.2	1.0	11.4	4
	ななつぼし	19.0	61.6	12.3	43.4	6.9	22.4	4
比布町	きらら397	44.4	61.8	28.2	35.1	7.3	9.5	10
	ほしのゆめ	56.7	72.0	36.1	50.8	13.6	32.7	10
北斗市	きらら397	34.4	25.0	7.5	11.5	1.2	5.8	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

一般田における水稻の穂いもち巡回調査結果

普及センター	地点数	被害率(%)		普及センター	地点数	被害率(%)		
		8月3半旬				8月3半旬		
		本年	昨年			本年	昨年	
空知	本所	5	0	渡島	本所	3	0	
	南東部	2	0		檜山	本所	2	0
	南西部	4	0			北部	2	0
	中空知	4	0		上川	本所	8	0
	北空知	8	0			富良野	2	0
石狩	本所	6	0	大雪		4	0	
	北部	4	0	士別		2	0	
後志	本所	4	0	名寄	3	0		
胆振	東胆振	4	0	留萌	本所	3	0	
日高	西部	3	0		南留萌	3	0	

2. 紋枯病 発生期 早 発生量 やや多

予察田における初発期は、岩見沢市および北斗市で平年より早かった。発生量は、岩見沢市では平年並、北斗市では平年に比べ多かった。

予察田における水稻の紋枯病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	初発期		発病株率(%)		発病莖率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	8月6日	8月20日	52.0	39.0	6.6	7.2	13.0	11.3	4
北斗市	きらら397	7月30日	8月11日	68.0	32.3	30.3	11.6	25.0	13.0	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

3. 葉しょう褐変病 発生量 並

予察田における発生量は、岩見沢市では発病株率、発病度ともに平年に比べ高く、北斗市では発病株率、発病度ともに平年に比べ低かった。

予察田における水稻の葉しょう褐変病発生状況

地点	品種名	調査時期	発病株率(%)		発病茎率(%)		発病度		平年数
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	8月6半旬	60.0	31.0	8.7	2.4	25.0	9.8	4
比布町	ほしのゆめ	8月4半旬	8.0	29.4	0.8	2.9	5.0	10.6	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

4. ウンカ類 発生量 並

ヒメトビウンカの予察灯による誘殺数はいずれの地点も平年より少なかった。予察田におけるすくい取り頭数は、長沼町および北斗市では平年より多く、比布町では平年並であった。

セジロウンカの予察灯による誘殺数はいずれの地点も平年より少なかった。予察田におけるすくい取り頭数は長沼町および北斗市で平年並、比布町では平年より少なかった。

8月3半旬の巡回調査によると、いずれの地点も目立った発生は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り頭数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り頭数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	32	214.5	1234	240.6	17	3.7	9.5	1.0	200.0	141.8	40.0	2.0
2半旬	14	219.3	396	503.6	13	4.0	10.0	15.4	65.0	77.8	40.0	8.8
3半旬	120	298.9	17	385.8	6	4.8	88.8	29.0	220.0	53.8	5.0	9.8
4半旬	302	186.3	0	225.9	7	28.6	105.0	11.5	140.0	137.6	35.0	8.8
5半旬	484	249.7	1	923.0	2	8.8	313.8	27.5	160.0	703.1	72.5	16.8
6半旬	20	342.8	65	2166.4	9	310	288.8	128.2	840.0	1077	22.5	49.3
平年数	10		10		10		3		10		10	

セジロウンカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り頭数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り頭数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	1	6.1	0	38.6	273	100.8	2.5	0.8	0	1.3	40.0	7.5
2半旬	2	32.2	2	53.2	64	72.1	3.8	0.9	5	3.0	7.5	10.0
3半旬	8	23.6	0	41.7	2	102.3	0.0	3.0	0	12.0	12.5	25.8
4半旬	19	38.6	0	22.8	4	71.3	1.3	2.7	10	3.6	15.0	14.3
5半旬	27	19.1	0	55.5	1	242.5	3.8	5.0	5	13.4	10.0	22.0
6半旬	4	7.8	0	33.3	0	83.1	5.0	8.7	0	18.1	5.0	11.3
平年数	10		10		10		3		10		10	

巡回調査によるヒメトビウンカ成幼虫の20回振り水田すくい取り頭数

普及センター	地点数	8月3半旬		普及センター	地点数	8月3半旬			
		本年	昨年			本年	昨年		
空知	本所	5	0	2.2	渡島	本所	3	1.0	3.0
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	10.5
	南西部	4	4.0	0	北部		2	1.0	0
	中空知	4	1.3	0.5	上川	本所	8	0.9	3.0
	北空知	8	1.9	5.5		富良野	2	0	0
石狩	本所	6	0.5	26.0		大雪	4	2.3	0
後志	江別	4	0.3	0.3	士別	2	3.5	2.0	
	本所	4	2.3	0	名寄	3	0	0	
胆振	東胆振	4	0	0.3	留萌	本所	3	27.0	3.3
日高	西部	3	0	0.3		南留萌	3	0.3	2.7

5. アカヒゲホソドリカスミカメ 発生量 並 <8月5日付け注意報第2号発表>

予察灯による誘殺数は、北斗市で平年より多く、長沼町では平年よりやや少なく、比布町では平年より少なかった。予察田におけるすくい取り頭数は、北斗市では平年より多く、長沼町および比布町では平年並であった。北斗市では、予察灯による誘殺数およびすくい取り頭数が中旬までは平年より多かったが、中旬以降は減少して平年並となった。

8月3半旬の巡回調査によると、水田すくい取りにおいて発生モニタリングによる追加散布の基準である捕獲頭数2頭以上（きらら397）となる水田が全76調査地点のうち、留萌地方の1地点で認められた。

アカヒゲホソドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り頭数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り頭数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	252	626.3	12	30.7	203	75.7	1.3	0.4	0	0.3	15	2.3
2半旬	159	644.4	4	37.1	225	41.6	2.5	3.1	0	0.0	5	3.5
3半旬	269	477.0	0	32.0	145	24.3	2.5	2.3	0	0.1	5	2.5
4半旬	278	257.4	0	8.2	106	14.9	3.8	4.0	0	0.0	0	1.0
5半旬	171	159.8	0	8.7	32	43.3	5.0	2.9	0	0.0	5	1.8
6半旬	32	132.2	2	19.3	28	38.7	2.5	3.4	0	0.9	0	1.5
平年数	10		10		10		3		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソドリカスミカメ成幼虫の20回振り水田すくい取り頭数

普及センター	地点数	8月3半旬		普及センター	地点数	8月3半旬			
		本年	昨年			本年	昨年		
空知	本所	5	0.2	0.4	渡島	本所	3	0	0
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	0
	南西部	4	0.3	0	北部		2	0	0
	中空知	4	0	0.3	上川	本所	8	0	0.1
	北空知	8	0	0		富良野	2	0	0
石狩	本所	6	0.3	0.3		大雪	4	0	0
後志	江別	4	0	0	士別	2	0	0	
	本所	4	0	0.3	名寄	3	0	0	
胆振	東胆振	4	0.3	0.5	留萌	本所	3	0.7	0
日高	西部	3	0.7	0		南留萌	3	0	0

6. フタオビコヤガ 発生量 少

予察灯による誘殺数は、いずれの地点も平年より少なかった。第2～3回幼虫による予察田の被害率は、北斗市で平年よりやや高く、長沼町では平年よりやや低く、比布町では平年より低かった。

フタオビコヤガ成虫の予察灯誘殺数および予察田における被害状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	6	200.7	169	519.5	8	59.9	3.6	7.4	1.3	7.6	0	-
2半旬	8	472.1	47	335.3	15	33.0	4.7	7.5	1.5	8.6	0	0
3半旬	20	552.8	36	250.1	1	22.5	5.0	7.8	1.4	10.0	0.1	-
4半旬	1	199.4	3	69.2	1	6.1	3.7	8.6	3.2	12.3	0.2	0
5半旬	1	45.0	2	17.3	0	4.5	2.9	11.8	3.0	15.0	0.5	-
6半旬	2	17.0	3	21.5	0	3.4	5.7	9.8	2.6	16.3	2.1	0
平年数	10		10		10		3		10		10	

B. とうもろこし

1. アワノメイガ 発生量 並

北斗市におけるフェロモントラップによる誘殺数は平年並であった。

フェロモントラップによるアワノメイガ雄成虫の誘殺数

月・半旬	北斗市	
	本年	平年
8月1半旬	0.5	0.1
2半旬	3.0	1.1
3半旬	1.0	1.8
4半旬	0	2.7
5半旬	2.0	12.0
6半旬	8.5	7.3

注)平年数は10年

C. 豆類

1. べと病(大豆) 発生量 並

長沼町の予察ほにおける発生量は、平年並であった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トコムスメ	25.5	29.6	29.0	31.6	30.5	33.7	10

2. わい化病（大豆） 発生量 並

予察ほの大豆におけるわい化病の発病株率は、長沼町では平年に比べ高く、訓子府町では平年に比べ低かった。

予察ほにおける大豆のわい化病の発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	発病株率(%)		平年数
		本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	75.0	44.1	10
訓子府町	トヨコマチ	8.0	47.9	10

3. 菌核病（菜豆） 発生量 少

芽室町の予察ほにおける菜豆の菌核病の発生量は、平年に比べ少なかった。

予察ほにおける菜豆の菌核病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	2.5	12.2	3.5	16.1	3.5	20.1	10

4. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生量 並

長沼町の予察ほ（小豆）における灰色かび病の発生量は、平年並であった。芽室町の予察ほ（菜豆）における灰色かび病の発生量は、平年に比べ少なかった。

8月3半旬の巡回調査結果では、一般ほにおける小豆の灰色かび病は石狩および十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおける小豆の灰色かび病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	0.5	2.7	3.5	4.6	5.0	5.4	10

予察ほにおける菜豆の灰色かび病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	2.0	19.0	5.5	21.8	5.5	29.3	10

一般ほにおける小豆の灰色かび病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		普及センター	地点数	発病株率(%)	
		8月3半旬				8月3半旬	
		本年	昨年			本年	昨年
空知 本所	1	0	1.5	上川 富良野	1	0	0
石狩 本所	4	2.8	0	大雪	3	0	0
	北部	1	10.0	0	0	0	0
後志 本所	2	0	0	名寄	2	0	0
胆振 本所	1	0	0	留萌 本所	1	0	0
	東胆振	3	0	0	0	0	0
檜山 本所	2	0	0	網走 本所	2	0	1.5
	北部	2	0	0	0	0	0
		0	0	網走	2	0	0
				美幌	4	0	0
				十勝 本所	3	0	1.7
				東部	6	0	0
				東北部	4	0	0
				北部	3	1.3	0.7
				西部	3	3.3	0

5. マメシクイガ 発生期 並 発生量 並

フェロモントラップによる成虫の誘殺数は、北斗市で平年より多く、長沼町および訓子府町では平年並、比布町および芽室町では平年より少なかった。

予察ほの大豆における産卵初発期は、芽室町で8月2半旬(平年：8月2半旬)と平年並、長沼町では8月3半旬(平年：8月1半旬)と平年より遅かった。産卵数は、長沼町で平年よりやや多く、芽室町で平年より少なかった。

フェロモントラップによるマメシクイガ成虫の誘殺数

月・半旬	長沼町		比布		北斗		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	32	23.8	17	68.8	1	0.4	13	10.8	10	1.3
2半旬	26	36.2	19	58.8	11	2.1	10	31.2	0	2.8
3半旬	18	42.6	3	17.3	25	6.7	8	26.8	5	9.6
4半旬	17	29.4	0	2.0	18	9.4	4	16.4	2	8.4
5半旬	5	23.6	0	3.0	32	8.5	3	7.8	7	3.0
6半旬	5	3.4	0	1.5	17	5.5	1	2.8	7	0.5
平年数	6		4		5		6		3	

予察ほの大豆におけるマメシクイガの産卵状況

月・半旬	長沼町		芽室町	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	6.9	0	2.3
2半旬	0	24.7	3	13.3
3半旬	8	31.3	8	33.2
4半旬	26	31.4	7	50.7
5半旬	101	19.9	4	22.3
6半旬	38	4.3	0	5.6
平年数	7		10	

注 1) 10 株あたりの産卵数

注 2) 品種は「トヨムスメ」

6. 食葉性鱗翅目幼虫（大豆・小豆） 発生量 並

予察ほの大豆および小豆における食害程度は、長沼町および訓子府町で平年並であった。

予察ほにおける大豆および小豆の食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	50	46.1	25	29.0	25	21.9	15	16.3
2半旬	50	51.3	25	29.9	26	22.1	19	19.0
3半旬	49	52.6	25	30.6	26	23.7	21	19.8
4半旬	50	54.4	25	30.2	29	22.5	21	21.8
5半旬	50	55.6	25	30.2	25	23.2	22	22.9
6半旬	50	55.9	25	31.2	24	22.9	23	23.4
平年数	10		9		10		9	

D. ばれいしょ

1. 疫病 発生量 やや多

<7月13日付け注意報第1号発表>

予察ほの「とうや」における疫病の発生量は、長沼町および訓子府町では平年に比べ多かった。北斗市は7月中に自然枯凋した。芽室町は未発生であった。

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月1半旬		8月3半旬		8月5半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	とうや	100	55.8	-	100	-	100	7
	スノーマーチ	100	32.7	100	45.1	-	68.9	6
北斗市	とうや	-	100	-	100	-	-	7
芽室町	とうや	0	100	-	100	-	100	7
	男爵薯	0	100	-	100	-	100	10
	スノーマーチ	0	100	0	100	-	100	7
	紅丸	0	97.8	0	100	0	99	10
訓子府町	とうや	95.5	42.6	-	100	-	100	7
	スノーマーチ	75.0	59.3	-	80	-	-	6

注) - : 茎葉の黄化、枯凋により調査不能

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、いずれの地点も平年より少なかった。ワタアブラムシの発生量は、長沼町で平年よりやや多く、訓子府町では平年より少なく、芽室町では発生が認められなかった。モモアカアブラムシは、いずれの地点も発生が認められなかった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.4	0	1.0	0	1.5	4.5	1.0	0	0.8	14.5	29.4
2半旬	0	0.2	0	0.6	0	1.0	0.5	0.6	0	3.8	5.5	28.5
3半旬	0	0.2	0	0.1	0	0.3	2.0	1.3	0	9.0	4.0	40.8
4半旬	0	0.1	0	0.0	0.5	0.1	1.5	1.0	0	30.9	18.0	41.7
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数

注2) 品種は「スノーマーチ」

E. てんさい

1. 褐斑病 発生量 並

予察ほにおける発生量は、長沼町および訓子府町では平年に比べ少なく、芽室町では平年並であった。

巡回調査の結果では、8月6半旬には一般ほにおいて石狩、上川、オホーツクおよび十勝地方の一部で発生が目立ち、発病株率が50%を超えたほ場が全調査地点（76地点）中9地点で認められた。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	リッカ	4.0	-	12.5	-	28.5	-	-
	あまいぶき	5.1	25.2	20.3	46.2	41.6	66.6	5
芽室町	リッカ	20.0	-	28.4	-	38.0	-	-
	あまいぶき	26.0	30.0	40.4	40.3	64.4	56.3	3
	スタウト	21.2	13.0	25.2	21.7	33.6	30.0	7
訓子府町	リッカ	14.8	23.5	27.2	38.5	43.2	60.3	6

注) -: 平年値なし

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)				
		8月3半旬		8月6半旬		
		本年	昨年	本年	昨年	
空知 南東部	1	0	0	3.0	0	
石狩 本所	3	9.3	10.7	32.7	55.7	
後志 本所	3	0	0	1.0	0.3	
胆振 本所	4	5.3	7.8	7.8	61.5	
	東胆振	3	1.3	14.7	3.3	23.3
上川 富良野	3	0	1.3	29.0	2.3	
	大雪	3	0.3	4.0	2.0	16.0
	士別	2	1.5	0	30.0	1.0
	名寄	1	0	0	1.0	16.0
網走 本所	10	7.2	8.7	35.9	11.7	
	清里	3	0.7	0.3	1.0	1.3
	網走	2	0	0.5	0	0.5
	美幌	6	0.7	0.7	3.5	7.8
	遠軽	9	2.6	9.0	13.4	6.0
十勝 本所	4	6.0	17.0	39.3	28.5	
	東部	6	10.5	0.8	17.8	14.0
	東北部	4	22.8	42.8	32.8	77.0
	北部	3	0	7.3	10.7	50.0
	西部	3	15.3	36.0	20.3	66.3
	南部	3	0	7.0	2.8	10.3

2. ヨトウガ（第2回） 発生期 並 発生量 やや少

予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町で8月8日（平年：8月8日）、芽室町で8月12日（平年：8月14日）、訓子府町で8月12日（平年：8月12日）と平年並、比布町で8月11日（平年：8月6日）、と平年よりやや遅かった。誘殺数は、長沼町、比布町、芽室町および訓子府町では平年より少なく、北斗市では誘殺が認められなかった。

予察ほにおける産卵初発期は、訓子府町で8月3半旬（平年：8月4半旬）と平年よりやや早く、芽室町で8月3半旬（平年：8月3半旬）と平年並であった。卵塊数は、芽室町で平年より少なく、訓子府町では平年並であった。長沼町では産卵が確認されなかった。食害程度はいずれの地点も平年よりやや低かった。

8月6半旬の巡回調査では、被害株率が50%以上となったほ場は認められなかった。

ヨトウガ成虫の予察灯誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.4	0	0.0	0	0.3	0	0	0	0.3
2半旬	1	2.2	0	0.2	0	0.2	0	0.3	0	1.1
3半旬	0	4.2	1	0.3	0	0.1	1	0.7	1	1.5
4半旬	0	3.5	0	3.1	0	0.5	0	1.9	0	1.1
5半旬	0	1.9	0	3.6	0	0.1	0	2.8	1	1.7
6半旬	0	2.1	0	0.9	0	0.1	0	2.0	0	1.6
平年数	10		9		10		10		10	

予察ほにおけるヨトウガの卵塊数および食害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.8	0	0.4	0	0.0	51.0	65.1	28	44.7	20	39.1
2半旬	0	2.6	0	0.8	0	0.3	46.0	63.7	28	44.8	25	40.8
3半旬	0	5.0	1	1.5	1	0.3	51.0	62.4	24	44.0	25	38.1
4半旬	0	6.0	0	2.1	0	0.7	31.5	59.5	24	43.5	25	38.3
5半旬	0	4.3	0	1.9	0	0.3	30.5	57.9	22	42.8	28	39.9
6半旬	0	2.7	0	1.2	0	0.8	36.5	59.9	22	41.8	31	40.3
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率

普及センター	地点数	8月6半旬		普及センター	地点数	8月6半旬		
		本年	昨年			本年	昨年	
空知 南東部	1	2.0%	2.0%	網走 本所	10	3.2%	4.5%	
	3	7.3%	4.0%		清里	3	1.7%	2.0%
	3	0%	3.3%		網走	2	4.0%	2.5%
	4	3.3%	3.8%		美幌	6	0.7%	21.7%
胆振 東胆振	3	0.3%	0.7%	遠軽	9	3.6%	34.5%	
	3	10.0%	56.3%	十勝 本所	4	6.3%	16.3%	
3	13.3%	20.0%	東部		6	2.3%	2.0%	
2	2.5%	0%	東北部		4	0%	0%	
1	2.0%	7.0%	北部		3	0%	0%	
上川 富良野	3	10.0%	56.3%	西部	3	2.7%	4.7%	
	3	13.3%	20.0%	南部	3	0.2%	7.3%	
	2	2.5%	0%					
名寄	1	2.0%	7.0%					

被害株率: 50株調査

F. あぶらな科野菜

1. 軟腐病（だいこん） 発生量 やや少

長沼町の予察ほにおけるだいこんの軟腐病の発生量は、平年に比べやや少なかった。

予察ほにおけるだいこんの軟腐病発生状況

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	耐病総太り	初夏播き	1.5	5.1	5.5	10.9	7.5	12.3	10
		耐病総太り	夏播き	-	-	0	0	0	1.9	10

注) - : 調査時期外

2. モンシロチョウ 発生量 多

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町および北斗市で平年より多かった。8月3半旬の巡回調査において、本種が優占種となる地点は認められなかった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウの発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	6	1.2	40	-
2半旬	43	6.0	61	3.8
3半旬	46	13.1	40	-
4半旬	26	28.4	33	4.7
5半旬	31	27.4	12	-
6半旬	14	20.6	8	6.2
平年数	10		10	

注) 10 株あたりの寄生虫数

3. コナガ 発生量 並

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、芽室町で平年よりやや多く、北斗市および訓子府町では平年並、長沼町では平年より少なかった。

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年並、北斗市では平年より多かった。

8月3半旬の巡回調査において、多くの地点で本種が優占種であった。

フェロモントラップによるコナガ成虫の誘殺数

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	31	102.7	112	39.7	4	3.0	4	2.2
2半旬	32	118.6	27	22.1	7	2.5	1	2.4
3半旬	29	87.2	15	31.7	1	1.6	0	1.1
4半旬	27	68.4	39	10.7	2	2.0	1	1.0
5半旬	11	36.3	25	15.2	0	1.3	1	0.5
6半旬	14	38.3	4	10.9	4	1.0	1	1.2
平年数	10		10		10		10	

注) 設置場所はあぶらな科野菜ほ場近辺、芽室町はあぶらな科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	3	4.0	64	-
2半旬	11	4.6	69	5.0
3半旬	30	37.0	17	-
4半旬	12	32.8	1	7.0
5半旬	12	18.6	2	-
6半旬	14	8.2	8	16.2
平年数	10		10	

注)10株あたりの寄生虫数

4. ヨトウガ (第2回) 発生量 やや少

予察ほのキャベツにおける卵塊数は長沼町で平年並であった。北斗市では産卵が認められなかった。予察灯による第2回成虫の誘殺頭数は長沼町では平年より少なく、北斗市では誘殺が認められなかった。(てんさいの項参照)。

8月3半旬の巡回調査において、本種が優占種となる地点は認められなかった。

G. りんご

1. 黒星病 発生量 やや多

予察園における発生量は、長沼町(無防除)の「昂林」および「つがる」ともに平年と比べやや多かった。余市町AおよびB(慣行防除あり)では発生は認められなかった。

巡回調査の報告によると、8月3半旬現在で一般園における発生は認められなかった。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	38.7	38.0	23.6	16.2	6
	つがる	25.7	33.3	16.0	13.4	6
余市町A	つがる	0	0	-	-	10
余市町B	つがる	0	0	-	-	10

注1)長沼町は8月6半旬、余市町A、B(慣行防除あり)は8月第5週のデータ

注2)-:調査対象外

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター	地点数	病葉率(%)	
		8月3半旬	
		本年	昨年
後志 北後志	4	0	0
胆振 本所	1	0	0
渡島 本所	1	0	0
留萌 南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病 発生量 並

長沼町の予察園（無防除）の「王林」における発生量は、平年に比べやや少なかった。余市町の予察園（慣行防除あり）では発生が認められなかった。

巡回調査の報告によると、一般園における発生は、デリシャス系等の感受性品種を調査対象にしている渡島および留萌地方において発生が認められた。また、「つがる」を調査対象としている胆振地方においても発生が認められた。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	2.8	4.3	0.1	0.1	5
	王林(徒長枝)	1.7	4.2	0.1	0.1	5
余市町B	つがる(徒長枝)	0	0	-	-	10

注1) 長沼町は8月6半旬、余市町B(慣行防除あり)は8月5週目のデータ

注2) -: 調査項目外

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター	地点数	病葉率(%)	
		8月3半旬	
		本年	昨年
後志 北後志	4	0	0
胆振 本所	1	6.0	0
渡島 本所	1	10.4	14.0
留萌 南留萌	1	29.0	27.0

3. ハマキムシ類 発生期 早 発生量 やや少

フェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキ第2回成虫の初発期は長沼町で8月9日(平年: 8月13日)、余市町Aでは8月12日(平年: 8月18日)と平年より早かった。リンゴモンハマキ第2回成虫の初発期は長沼町で8月5日(平年: 8月10日)と平年よりやや早かった。

リンゴコカクモンハマキの誘殺数は、長沼町で平年並、余市町Aでは平年より少なく、余市町Bでは誘殺が認められなかった。リンゴモンハマキの誘殺数は、長沼町で平年並、余市町AおよびBでは誘殺が認められなかった。幼虫による被害新梢率は、長沼町で4.0%(平年:1.2%)と平年並であった。余市町AおよびBでは被害が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、いずれの地点も平年より少なかった。リンゴモンハマキの誘殺数は、岩見沢市および伊達市で平年より少なく、壮瞥町では平年よりやや少なく、札幌市および七飯町では平年並であった。

予察園におけるフェロモントラップによるハマキムシ類の誘殺数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.3	0	0.2	0	2.1	6	4.5	0	0.5	0	0.2
2半旬	1	1.2	0	0.5	0	3.0	3	5.3	0	0.4	0	1.0
3半旬	1	3.3	0.4	0.9	0	3.7	8	16.3	0	0.0	0	0.3
4半旬	2	2.2	0.6	0.9	0	4.1	24	28.7	0	0.1	0	0.2
5半旬	5	2.0	0	0.7	0	5.2	43	46.7	0	0.1	0	0.3
6半旬	0	1.2	0.6	1.6	0	3.7	22	39.9	0	0.4	0	0.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除あり

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.2	0	0.1	0	0.5	0	0.0	0	0.5
2半旬	0.5	1.1	0.8	0.4	0	0.7	0	0.2	0	1.5
3半旬	0	1.8	0.3	1.5	0.3	1.0	0	0.6	0.3	1.1
4半旬	0	2.5	0	2.9	1.5	1.5	0	0.4	0.7	0.8
5半旬	0	1.7	0	3.5	1.2	2.5	0	0.4	0	1.4
6半旬	0.5	1.7	1.7	2.1	0	3.9	0	0.8	0.6	2.0
平年数	10		10		10		10		6	

注)調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町各1地点

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	1.0	1.0	12.8	3.9	4.0	1.6	0	0.2	0.5	0.3
2半旬	0.5	0.5	5.9	1.3	0	1.4	0	1.3	2.0	0.7
3半旬	0.8	1.0	0.3	0.7	0.5	2.7	0	1.6	3.2	1.7
4半旬	1.7	2.2	0	1.3	2.5	9.0	0	1.0	4.3	3.6
5半旬	0.5	4.1	2.9	3.4	4.3	20.0	0.8	1.2	4.3	6.5
6半旬	3.5	7.4	9.7	13.5	13.7	32.4	1.2	1.8	11.4	10.2
平年数	10		9		10		10		6	

注)調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町各1地点

4. モモシクイガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町では平年よりやや多く、余市町AおよびBでは平年並であった。長沼町の予察園における産卵数は平年並であった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、札幌市で平年よりやや多く、岩見沢市と七飯町では平年よりやや少なく、その他の地点では平年並であった。

予察園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						産卵数 (/100果)		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	184	140.0	93.6	80.0	110.0	46.8	34	171.9	100	72.4
2半旬	27	52.4	62.1	71.3	51.4	42.6	51	98.1	100	84.0
3半旬	7	30.6	57.9	67.3	29.1	33.7	49	42.3	100	88.7
4半旬	67	14.8	51.4	55.5	13.4	30.4	81	45.0	100	88.8
5半旬	54	15.8	37.1	27.7	10.0	22.3	78	46.2	100	88.4
6半旬	23	19.9	51.2	34.7	38.9	26.4	-	63.4	100	90.3
平年数	10		10		10		10		10	

注1)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり

注2)-:未調査

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	6.5	9.8	12.8	6.4	53.4	23.6	4.1	2.5	58.6	66.0	81	42.9
2半旬	4.0	10.6	7.4	5.2	12.5	20.1	3.3	3.8	39.5	92.4	12	24.4
3半旬	1.3	6.1	6.5	3.9	18.5	25.2	2.4	5.3	25.6	88.0	3	20.1
4半旬	1.3	2.9	7.2	2.8	12.5	28.2	2.1	6.1	12.9	47.1	2	20.6
5半旬	0.5	2.3	10.0	3.6	14.3	31.5	6.8	6.0	12.9	26.8	0	12.5
6半旬	0	2.1	6.9	3.9	25.7	35.3	9.6	7.3	19.4	23.8	4	15.4
平年数	10		10		10		10		6		9	

注)調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町・旭川市各1地点

5. ハダニ類 発生量 少

予察園におけるリンゴハダニの発生量は、長沼町で平年より少なかった。余市町AおよびBでは発生が認められなかった。ナミハダニの発生量は、余市町Aで平年よりやや少なく、長沼町および余市町Bでは平年より少なかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	11.1	0	5.0	0	1.0	0	9.9	6	8.0	1	0.0
2半旬	0	5.6	-	2.7	-	3.1	0	10.2	-	6.2	-	4.1
3半旬	0	2.9	0	1.3	0	1.3	0	17.1	2	1.0	1	16.3
4半旬	0	4.1	0	1.4	0	13.1	2	15.2	2	5.0	0	36.3
5半旬	3	3.4	-	1.0	-	8.5	0	20.7	-	4.0	-	7.3
6半旬	-	3.9	0	1.4	0	1.9	-	15.0	0	2.9	0	8.6
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1)30葉あたりの寄生虫数

注2)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり

注3)-:未調査

6. キンモンホソガ 発生量 少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、余市町AおよびBでは平年より少なく、長沼町では平年よりやや少なかった。予察園における被害葉率は、いずれの地点も平年並であった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、札幌市で平年よりやや少なく、その他の地点では平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	19	27.5	157.9	346.2	50.7	278.8	6	7.8	1	0.4	1	0.0
2半旬	39	42.5	77.9	674.9	57.9	606.8	7	8.5	-	1.0	-	0.3
3半旬	37	60.0	69.7	676.6	48.4	888	9	15.0	0	0.8	0	0.0
4半旬	78	52.9	62.9	776.7	35.1	627.2	21	18.0	0	2.0	0	0.7
5半旬	56	87.4	57.1	362.9	7.1	379.1	19	23.6	-	0.8	-	0.0
6半旬	41	129.9	122.7	409.2	7.7	127.6	-	29.7	0	1.9	0	0.8
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり

注2)-:未調査

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	3.5	75.6	2.2	3.0	51.4	51.8	38.1	279.4	40.6	287.0	5.4	64.3
2半旬	0	103.7	1.6	2.5	42.5	67.9	105.0	374.8	39.0	550.2	23.4	102.2
3半旬	2.1	133.9	1.1	2.6	42.7	77.7	230.1	602.7	14.9	352.0	47.8	145.7
4半旬	2.9	138.2	1.1	2.2	3.5	70.4	265.7	885.4	2.1	230.3	97.5	234.7
5半旬	3.5	90.4	2.9	3.2	4.8	44.4	119.1	850.3	5.0	356.2	176.1	302.6
6半旬	1.5	156.6	4.6	8.8	12.0	37.5	99.0	717.0	3.1	334.4	159.4	299.2
平年数	10		10		10		10		7		10	

注)調査地点数は、岩見沢市・増毛町各2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町各1地点

農薬は適切に保管管理及び処分しましょう!!

■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり、農薬の使用も少なくなってきますが、次年度に向けて適切に保管管理を行ってください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められているので、これを遵守してください。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしましょう。
※ 昨年、道内でも飲料ペットボトルへの移し替えによる誤飲事例がありましたので、絶対に移し替えはしないようにしましょう。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器に農薬が残らないよう容器内の農薬を適切に除去してください。

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課（TEL:011-231-4111(内線)27-838)

北海道病虫害防除所（TEL0123-89-2080）

または最寄りの総合振興局・振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。